

2021年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 90,636 人
 前年度 100,118 人 前年度比(100) 90.5 % 9,482 人減

平成30年4月8日開館以来の延来館者数 524,303 人

年間総開館日数 257 日 1日平均利用者数 352.7 人

曜日別利用状況

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜・祝日	計
0歳児～小学3年生	5,121	5,715	0	5,292	4,924	10,146	15,912	47,110
小学4年生以上	36	30	0	32	29	150	228	505
保護者等	4,443	5,042	0	4,695	4,396	9,166	14,978	42,720
ボランティア	3	0	0	4	2	3	0	12
見学	22	33	0	33	31	10	40	169
団体	58	0	0	0	53	9	0	120
合計	9,683	10,820	0	10,056	9,435	19,484	31,158	90,636
日数	38	42	0	39	41	42	55	257
1日平均人数	254.8	257.6	0.0	257.8	230.1	463.9	566.5	352.7
利用者構成比	10.7	11.9	0.0	11.1	10.4	21.5	34.4	100.0

2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		26	27	25	27	27	13	27	26	24	14	0	21	257	
利用者数	0～小3	計	4,601	5,078	4,157	4,248	4,461	2,480	5,328	5,686	3,881	2,221	0	4,969	47,110
		1日平均	177.0	188.1	166.3	157.3	165.2	190.8	197.3	218.7	161.7	158.6	0.0	236.6	183.3
	小学4年生以上	計	75	71	51	43	55	31	49	45	23	22	0	40	505
		1日平均	2.9	2.6	2.0	1.6	2.0	2.4	1.8	1.7	1.0	1.6	0.0	1.9	2.0
	保護者等	計	4,068	4,757	3,748	3,882	3,894	2,332	4,833	5,220	3,525	2,014	0	4,447	42,720
		1日平均	156.5	176.2	149.9	143.8	144.2	179.4	179.0	200.8	146.9	143.9	0.0	211.8	166.2
	ボランティア	計	0	1	0	2	1	0	0	0	0	8	0	0	12
		1日平均	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.1
	見学	計	19	15	8	10	14	39	38	9	4	4	0	9	169
		1日平均	0.7	0.6	0.3	0.4	0.5	3.0	1.4	0.3	0.2	0.3	0.0	0.4	0.7
	団体	計	0	9	0	40	8	0	37	16	10	0	0	0	120
		1日平均	0.0	0.3	0.0	1.5	0.3	0.0	1.4	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.5
	合計	計	8,763	9,931	7,964	8,225	8,433	4,882	10,285	10,976	7,443	4,269	0	9,465	90,636
		1日平均	337.0	367.8	318.6	304.6	312.3	375.5	380.9	422.2	310.1	304.9	0.0	450.7	352.7

新規登録世帯数 1日平均 / 9.7世帯

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録世帯数	221	248	224	216	215	149	340	278	189	102	1	314	2,497

利用者登録世帯数 (2021/4/1～2022/3/31)

登録世帯	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録世帯数	788	583	186	84	309	29	21	187	279	31	2,497
割合	31.6%	23.3%	7.4%	3.4%	12.4%	1.2%	0.8%	7.5%	11.2%	1.2%	100.0%

年間運営総括及び来期への課題

・年間の利用者数は、コロナ禍の影響もあり前年度と比べ9,482名ほど減少した。特に今年度は、子ども達の間で感染が広がったこともあって、地域でも休園や学級閉鎖が相次ぐ等、その影響が際立っていた。一方で感染状況が一旦落ち着くと例年同様の賑わいが見られる日もあった。日々の消毒作業や入場制限の対応等、前年度に引き続き感染対策を徹底した1年だった。

・9月、特別警報が新潟県全域に拡大したことを受け、3日から16日まで臨時休館となった。また、まん延防止等重点措置が新潟県に適用されたことに伴い、1月21日から3月6日までの間、休館の対応をとることとなった。これまでの臨時休館で最長の約6週間に及ぶ休館だった。この間は冬場ということもあって、遊び場のなさに苦しむ親子から切実な声が度々寄せられた。親子がいま抱えている思いを気軽に吐露できる場があれば、という思いから『おうちの人の声を聞かせてください』と題したアンケートをホームページ上で実施すると、1週間の実施期間のうちに27件の回答が集まった。「親子のストレスが溜まりやすい」「支援センターの必要性を思い知らされている感じです」等、施設の再開を願う声が多く寄せられた他、「インスタ見てます！」と休館中の投稿を楽しんでくれている嬉しい声も聞くことが出来た。

・休館中、居場所が限られてしまう親子に向けて何が出来るのか、職員全員で話しあい、SNS（Instagram）を活用し、『おうちでい～てらす』と題したお楽しみ動画を投稿した他、中止となったイベントの申込み者へ手作りおもちゃキットの郵送を行った。また、2月・3月はリモート配信にも挑戦し、直接会えない中でも子育て家庭と施設との繋がりを保ち続けることが出来るよう様々な取り組みを行った。来期も、SNSの活用やリモート配信等、継続して続けていきたい。

・一時預かりは年間で657件の利用があった。初めて一時預かりを利用する親子も多く、そこからリピーターへと繋がっていく親子も少なくない。その背景には、利用の理由を問わない点や少人数での安全な保育環境、職員との信頼関係などが大きく影響しているように感じられる。実際に、保育園とは異なるような少人数での保育環境を求めて来られた利用者の姿もあった。また、ひろばによく遊びに来ている親子も、保育者が見知った職員であることに安心して預けられる様子も見られた。ひろばでの保護者との関わりの中で育児の様子を知り、一時預かりを薦めることもある。すると、「そういったこともされているんですね！」と一時預かりの存在を知らなかったという保護者もいて、喜んで予約をされたこともあった。子育て施設に一時預かりの機能が備わっている強みだと実感する。今後もその強みを活かしながら子育ての一助となれるよう、子ども一人ひとりの様子にあわせた安心・安全の保育を続けていきたい。

・感染対策を講じた上で、イベントも出来る限り実施をした。前年度はこいのぼりの掲揚のみとなった『こい来いフェスタ』も、今期は公園ちびっこ交流広場でのスタンプラリーを企画し、行政や地域の方々と協力して安全に開催することが出来た。来期も状況に応じた感染対策等続けながら、自治体や地域の方達と連携し、季節のお祭

り行事を地域のイベントとして定着させ実施していきたい。

・土日祝日は、800人を超える利用者数の日もあった。今期から、安全のため土日祝日の低学年ひろば利用を年齢別の時間制とした。当初は、年少以下の子の保護者から、「遊べる時間を長くしてほしい」といったご意見が度々寄せられたが、その都度、利用対象について納得を頂けるよう丁寧に説明をした。反対に、「より安心して遊べるようになりました」といった保護者の声もあった。時間制は徐々に定着しており、対象の時間を目掛けて来館する親子の姿が多く見られるようになっている。また、ひろばでは、職員が常駐し見守りを行っているが、例年同様、土日祝日は遠方から遊び場を求めて来られるご家族も多く、自由奔放に遊んでいる様子がよく見られている。子どもが保護者を見失い、館内で迷子になるケースも少なくない。安全に楽しく遊んで頂くために、また、誰もが安心して過ごせる居場所であるために、利用者同士がお互いのことを思い合えるような場所でありたい。その為に、保護者や地域の方たちから、ボランティアやサポーターとして、見守りやイベントに協力して頂くなど、これまで以上に周囲と力を合わせた運営を来期の課題としたい。

総括・自己評価

・新型コロナウイルス変異株の全国的な流行や、子ども達への感染拡大等、感染状況の変動が大きい1年だった。常に情報収集を続け、行政と連携しながら状況に合わせて柔軟に対応を行った。日々の消毒作業や入場制限等、感染対策を徹底し、利用者にとって安心安全な施設運営に取り組むことが出来たと思う。

・年間では90,636人の利用があった。感染拡大防止の為に臨時休館となった期間もあり、前年度と比べ減少している。開設以来の述べ来館者数は11月に50万人を迎えた。その数字の大きさから、約4年の間に、本当に、多くの利用を頂いていることを改めて実感する。開設当初から遊びに来てくれている子ども達の中には、春から入園・入学という家庭も多く、「い～てらすでたくさんお世話になりました」「土日にまた来ます！」等、職員へ挨拶をして下さる親子もいた。また、春から小学4年生になる常連の子ども達も多い。利用対象ではなくなるものの、「子どもボランティアができる！」と本人達からは喜ぶ声が聞かれた。い～てらすの存在が、対象年齢で線引きされることなく、繋がっているのだと実感できる嬉しい言葉だった。今、遊びに来てくれている子ども達が大きくなり、やがて子育て世代となった時も変わらず繋がりが続いていられるよう、地域の居場所づくりに今後も全力で取り組んでいきたい。

・特別警報が新潟県全域に拡大したことを受け、9月3日から16日まで臨時休館となった。また、まん延防止等重点措置が新潟県に適用されたことに伴い、1月21日から3月6日までの間、休館の対応をとることとなった。いずれの期間中も、市からの指示のもと一時預かりと相談業務は継続して実施した。一時預かりは、ほとんど毎日予約が入っている状況で、そのニーズの多さを改めて強く実感した。

・相談業務に関しては、休館中に一時預かりを利用した保護者から、お迎え時に家庭のことについて保育者へ相談が寄せられた。行政とも連携して、保護者の気持ちに寄り添いながら対応を行い、その後親子は関係機関へと繋がった。また、休館中「ストレスが溜まっている」と話す母子に、遊び場提供を含む相談業務を実施していることを伝えると、「お願いしたいです」と来館されたこともあった。休館期間中だけに限らず、普段遊びに来られている保護者から「相談したいのですが」と職員に声が掛かることも度々ある。遊び場として施設を利用される家庭も多い中、支援を求めて来館する親子の存在もあることを強く認識している。日々の何気ない会話など、一人ひとりとの関わりを大切にしていきたい。

・毎月実施している『あんよのまへのいないいないばあ』や『おしゃべりテラス』も母親達の交流や情報交換の場となっている。『おしゃべりテラス』は今期も母親2名にファシリテーターとして参加してもらった。卒乳や食事、遊びについて等、毎回様々な話題があがり、ありのまま、悩みに共感しあったりアドバイスを送りあったりと、母親同士の貴重な交流の場となっていることが感じられる。また、今期は地域の助産師を招いたおしゃべり会も通年開催した。授乳や睡眠について等、悩みや葛藤を抱えている母親の参加が多くある。専門的な視点から母親に寄り添い、温かな言葉かけが

なされ、なかには涙を流す母親の姿が見られることもある。参加した母親からは「こうして吐き出せる場所があることが本当にありがたい」といった話もあった。母親主体のおしゃべり会と助産師とおしゃべり会、どちらも母親たちにとって大切な居場所となっている。来期も継続していきたい。

・『い〜てらす』は、子育て家庭にとっての遊び場や一時保育、育児相談、そして、交流の場など多様な機能を持ち合わせる施設だと改めて実感している。今期、職員はこれまで以上に、積極的に研修へ参加をした。リスクマネジメントや子どもとの関わりについて等、一人ひとりが前向きに学びを深めている。施設の持つ多様な機能を最大限に生かせるよう、今後も研鑽を重ねながら、子育て家庭や地域により寄り添った柔軟な施設運営を行っていきたい。